

## 大森さん

我々が大森さんと呼んで親しんでいる大原神社。この神社は天平五年（七三三）に書かれた、出雪国風土記に仁多郡で七社（内旧仁多町で六社）の内の一社で大原社として記されている。

成務天皇五年（一三五）上阿井雪崎に勧請したと伝えられ、和銅二年（七〇二）上阿井字神田へ移転され、万治三年（一六六〇）十月、現在地に移転された。（福原より祭神大名牟遲命・玉比女命を合祀した）配祀神は大物主命である。（以上大原神社よりの書出し）福原より合祀された玉比女命は、往古阿井郷時代（阿井と馬木地区に当る）に現在の馬木地区にあったものを福原に地名と共に移したもので、その後、槇木（馬木）と名乗ったと馬木村史は語っている。

祭神についてはこれ位にし、次は境内にある巨大な石造物について紹介しよう。石段の下段と中段の界に高さ約五米の大鳥居がある。これは宝暦十年（一七六〇）六月、櫻井家五代源兵衛利吉の寄進になるものであり、鳥居にほられた字は全国的にも有名な禅宗（曹洞宗）の高僧。萬仞道旦（ばんじんどうたん）の筆であると伝えている。（道旦は長栄寺にも逗留したと伝えられる。）

又最下段の石段の前には、これ又大きな手水鉢がある。これも櫻井家十代の三郎右衛門直達（なおみち）の寄進になるものである。明治十六年（一八八三）九月・手水鉢の前にある石灯笼は大正（一九一九）長瀬太五郎（上阿井長瀬氏の祖）の寄進によるものである。

